

# (株)阿部蒲鉾店

**緊急時の食料供給は食品会社の役目。  
火を使わず食べられる“かまぼこ”が喜ばれた。**

工場の機械は震度5程度の揺れで自動的に止まるシステムで、訓練通りの避難ができました。社員の安否確認は1件ずつ短い言葉や内容で行いましたが、全員の安全を確認するまで4時間かかり、工場や店舗などの被害状況の確認には半日を費やしました。

毎年3月には来店するお客さまが増えるので、商品在庫も多めに準備してありましたが、店舗は休業状態。しかし、自家発電設備により商品の鮮度は保たれたままでした。営業活動はしばらく無理と判断し、かまぼこの配布を「まずは困っている人たちへ」と、被災者の皆さんにお配りすることになりました。ガソリンが入っていた車を使い、仙台市内や多賀城、富谷、名取などの避難所や病院へ、本社や製造、営業担当の計20人で次々配って回りました。その数は4000枚にもなりました。かまぼこは火を通さずにそのまま食べられるので、どこへ届けても非常に喜んでいただきました。

営業は3月27日から、順次再開できましたが、10店舗は甚大な建物

被害などのため、やむを得ず閉店しました。それらの店舗で使用していた冷蔵庫やショーケース、その他の什器などは、同業の4社へ無償でお譲りいたしました。仙台名物の笹かまぼこは観光地仙山の成長や水産業の発展と共に歩んできました。宮城の豊かな食文化の一翼を担ってきたという自負を胸に、これからも地元経済の復興のために頑張ります。(総務部長 高橋 寿弘さん談)



▲阿部蒲鉾店本店外観

## (株)阿部蒲鉾店

**所在地** 〒980-0021 仙台市青葉区中央二丁目3番18号  
**TEL** 022-222-6455 **FAX** 022-222-1533 **E-mail** takahasi@abekama.co.jp  
**事業内容** 蒲鉾の製造販売 **創業年** 1935(昭和10)年  
**代表者** 阿部 賀寿男 **従業員** 100名以上



# うなぎ竹亭

**うなぎで心に元気とスタミナを。  
被災地からうなぎの次にできること。**

仙台市内2店舗のうち、南光台本店は地割れで全壊、中山店も被災しました。土用の丑の日までに何とか再開しようと、お金を工面して店を修理しました。市場や農家に出向いて食材を直接買い集め、どうか丑の日までに通常営業の再開が間に合いました。

震災前から情報交換していた、うなぎ屋7店による“うなネット宮城”に、国内外のうなぎ関係者から多くの義援金が集まりました。これを元手に、津波被害に見舞われた石巻の鰻屋仲間のために、他の4店舗が石巻の商店街でうなぎの炊き出しを行いました。現地では焼いて作ったうなぎ弁当は460食。ボランティア活動に参加した一人は、避難者が「まさかうなぎを食べられるとは思わなかった」と言った顔が忘れられないと語っていました。

店を再開してからは、“伊達なうなぎまぶし定食”の代金から100円寄付をいただき、石巻のうなぎ店を支援する活動を2012年の春まで続けました。震災を別にしても、うなぎ屋は原料となるうなぎが減少して大変な状況でしたが、沿岸部の被害の大きさを思うとやるしかないという気持ちになりました。

天災のように想定外のことは残念ながら往々にして起こるものです。それに対し諦めずどう対処するか、その際の心の強さですとか、解決方法は必ずあるという前向きな姿勢や、「やらなきゃ」という発想が身につきました。現在、東北大学大学院の地域イノベーション研究センターに通い、事業プランやアイデア創出などを学び、新しい事業展開を考えています。この苦勞をばねにしてうなぎの次、日本料理の次を被災地から発信し、世界へ広げていきたいという気持ちでいっぱいです。(代表取締役社長 阿部 英之さん談)



▲ボランティア中の阿部英之さん



▲ボランティア活動を行った車

## 支援連携先

- 東北大学大学院地域イノベーション研究センター  
東北地域の産業振興と経済発展に貢献するために、各種企画を行う拠点

## うなぎ竹亭

**所在地** 〒981-8001 仙台市泉区南光台東1-53-22  
**TEL** 022-252-5030 **FAX** 022-252-5029 **E-mail** chikutei@rose.ocn.ne.jp  
**事業内容** 飲食店 **創業年** 1991(平成3)年  
**代表者** 阿部 英之 **従業員** 18名



# 菊寿し

**地域の人つながり、声かけの大切さ。新しい出会い。  
絆やつながりの大切さを実感。**

震災の2日前にあった大きな地震で嫌な予感がし、石油ストーブの灯油の買い物中に被災しました。発災直後は何をしたらよいか分からず動揺してはいましたが、とにかく近所の一人住まいの方のお宅を回って、店にあったご飯などを配りました。町内では動ける人たちが交代で、高齢者宅に落合の児童館で汲んだ水や食料を届けたりもしました。3月23日には塩釜水産物仲卸市場へ買い出しに行き、被害の状況を目の当たりにしました。あまりの惨状に何かしなくてはと思い立ち、営業再開後は店内に募金箱を置くなどし、宮城県の育英基金へ寄付させていただきました。

物資の支援については、家にあった5色クレヨン100箱を、美術協会に持参したら喜んでいただきました。一方、避難所では全員の数分がないと、受け付けてもらえません。そんな中、巨野町の高音寺は人数分そろわない物資を引き取り、仮設住宅に配っているとの情報が入りました。私は味噌や醤油、日用品などを買って届けながら、住職に必要な物を聞いて持って行きもしました。その際に、隣の山元町で活動する“スコープ”のこと

を知りました。そのパワーと意気に共感し2012年3月の鎮魂の花火大会の、打ち上げ資金への協力もしました。今回の震災では、普段は話をしない人や全く知りもしなかった人も助け合いたいという一心で次々情報交換できました。つくづく絆やつながり大切だと実感しています。(店主 八幡 勲一さん談)



▲菊寿し外観



▲店内の募金箱 ▲復興応援メニュー

## 支援連携先

- スコープ  
宮城県を中心に人助け及び人助けの支援を行う団体 <http://schop-dan.com/>
- 東日本大震災みやぎこども育英基金  
震災孤児の生活の安定と進路選択の実現を支援する基金

## 菊寿し

**所在地** 〒989-3214 仙台市青葉区みやぎ台4丁目20-13  
**TEL・FAX** 022-394-6521 **E-mail** 5321twyc@jcom.home.ne.jp  
**事業内容** 飲食業 **創業年** 1979(昭和54)年  
**代表者** 八幡 勲一 **従業員** 3名



# 手作りクッキーの店 (有)けんと一番町店

**震災から2年後でも感謝の言葉。  
“店が開き人がいて心強かった、ありがとう”**

震災発生時は、女性スタッフと2人で一番町の店舗にいました。建物が古く、ものすごい揺れでしたが、店にずらりと並べてあったクッキーが入った瓶は重かったため、地震の揺れでも動かず、思いのほか大きな被害はありませんでした。うちの手作りクッキーは都市ガスで焼いていたので、営業を再開できたのはガスが復旧した1カ月後のことでした。

発災後は、お店にあったクッキーを消費税なしで販売しました。材料にこだわったけんとの手作りクッキーは、大きくて食べごたえがあります。食品が手に入らず身体はもちろん心も疲れている方の多い時期でしたので、優しい甘さのクッキーは大変喜ばれました。また、店舗では水道が使えなかったので、“トイレ貸します、ペットボトルがあれば水差しあげます”と貼り紙もして、食料を求めて街に出ていた方たちに利用していただきました。その後は、知り合いが弁当を販売したいということで、店舗を1~2週間貸すことになりました。震災から2年以上経た現在も、発災時にご利用いただいたお客さまから、当時を振り返る感謝の

言葉をいただくこともあります。被災当初は、都市ガスが止まったままで、私は仕事ができなくていい状態でした。そこで、それならそれで割り切って、周りの人の役に立つことをしたいと思いました。ちょうど知人の父親が入院していましたが、知人は車の運転ができず、交通機関の利用もままならない時期でしたので、私がドライバーを引き受けることにしました。知人の病院への送迎は結局1年にも及ぶものになりましたが、あの震災の時期は誰かとつながっていたい、支え合いたいという空気に包まれていたと思います。誰かの役に立ちたいと思って引き受けたことが、私自身のできる精一杯の継続的な支援活動となりました。(取締役 金野 明枝さん談)



▲けんと一番町店外観



▲店内の商品

## 手作りクッキーの店 (有)けんと一番町店

**所在地** 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-4-26  
**TEL・FAX** 022-215-5054 **創業年** 1987(昭和62)年  
**事業内容** サービス業 **代表者** 平山 ケント **従業員** 5名



# 弘進ゴム(株)

各自治体と直接連絡、物流企業も協力。  
自衛隊・警察・自治体へ胴付長靴を無償提供。

本社建物の被害は亀裂や一部破損などで、営業に支障はありませんでした。会社はオール電化で、電気は3月13日には復旧したのですが、設備点検して3月16日から営業を再開しました。巨理工場は少ない被害でしたが、卸町の倉庫は半壊となり、荷崩れも発生し、大変な状況でした。

震災直後、津波被害の状況を把握できないまま現地に入った自衛隊や警察などから、腰までのゴム長“胴付長”の緊急要請があり、急遽対応しました。倉庫内は仕分けされていた10万ケースの商品が棚ごと崩れ、電気もなく真っ暗な状態でした。懐中電灯を頼りに見つけ出した胴付長約30足を送り出し、最終的には約300足を出荷しました。片付けもままならない中、各地の自治体からは履物の提供を要請されました。私たちは支援本部を立ち上げ、どこで何が必要なのかをまとめ、協会会員の支援分を含む約3万足を、各自治体へ提供しました。自治体への運送は、物流・倉庫管理を担当していた東芝ロジスティクス(株)が無償で請け負ってくれました。

がれき撤去作業時にくぎの踏み抜きなどでけが人が出て、靴底に鋼板の入っ



▲仕分けられている履物救援物資

た安全長靴が重宝されました。札幌出張所より鋼板入りインソールを取り寄せ、供給体制を整えるまでには約3カ月を要しました。もともとは消防などの特殊作業用でしたが、震災後は一般にも注目されることになりました。

今回の支援は、自分たちだけではできないことを、同業者をはじめ、さまざまな企業の協力を得て取り組むことができました。今後ともこの絆を大切にし、災害発生時には積極的に支援活動を行っていきたく考えています。

(理事 SW統括本部長 加藤 博幸さん、経営管理部長 米沢 孝さん、総務部 総務チーム 主任 寒川 英明さん談)

## 支援連携先

### ●東芝ロジスティクス(株)

輸送ネットワークを一貫して展開する1974年創立の東芝グループ会社  
<http://www.toshiba.co.jp/logi/index.html>



## 弘進ゴム(株)

所在地	〒984-0816 仙台市若林区河原町2-1-11		
TEL	022-214-3011	FAX	022-214-6831
事業内容	ゴム・ビニル製品の製造・販売	創業年	1935(昭和10)年
代表者	西井 英二	従業員	340名

# 三栄会

復興支援と地域活性化のために。  
元気になるイベント“とみざわマルシェ”

三栄会は、太白区の富沢、泉崎、長町南の店主の集まりで、毎年秋にステージショーと数店の屋台を中心とした地域のお祭りを開催してきました。2011年は、震災後の地域復興策として何かできないかと協議を続け、若い人々からの提案でマルシェのスタイルで開催することになりました。マルシェということで出店数を増やそうと、被害の大きかった関上、石巻、女川などの地域に声をかけました。本来出店は有料ですが、震災復興を後押ししようと、被災地域の商店は無料で招待することにしました。県内外から約60店舗が出店、そのうち被災地からは6店舗が参加してくれることになったのです。

9月25日、富沢公園で“とみざわマルシェ”が開かれました。食品の出店が7割、衣類などのフリーマーケットの物販店が3割で、特に飲食ブースは完売するほどの盛り上がりでした。地元の子供たちはステージショーを行ってもらうなどで、笑顔を取り戻しました。被災地からの店主からも、大勢のお客さまと触れ合うことで、仕

事を続けていく励みになったと大変喜んでいただきました。“とみざわマルシェ”はこれまでにない5000人もの来場者があり、大成功を収めたのです。

その後、震災復興をテーマとした“とみざわマルシェ”を毎年開催することになりました。年々規模も大きくなり、マルシェを中心にアートあり、音楽ありで、さらに地域の小・中学校などとの連携も始まりました。三栄会設立から27年目となりますが、会員の中には震災の影響で会社を閉めた方もいます。いま私たちができることは、地域のみなさんに喜んでいただける活動を継続していくことです。これからも人とのつながりを大切にして地域を盛り上げ、震災復興のためにできることをやろうと考えています。

(三栄会会長/おおまち写真社店主 大町 喜市さん談)



◀とみざわマルシェ



## 三栄会

所在地	〒982-0012 仙台市太白区長町南4-23-28(株)ファーストテクノ内		
TEL・FAX	022-246-4571		
事業内容	仙台市太白区の富沢・泉崎・長町南地区の地域振興会	創業年	1987(昭和62)年
代表者	大町 喜市(三栄会会長/おおまち写真社店主)	加盟店数	78店舗

# 菅原動物病院

動物とのふれあいで心を癒すボランティア。  
被災したペットの里親を探す。

当院は、川を遡上した津波が押し寄せ、50cmの高さまで浸水・冠水しました。地震による施設の被害はありましたが、幸いなことに人や動物に被害はありませんでした。近隣の高砂市民センターには1200人以上の人たちが避難していましたが、指定避難所ではありませんでしたので、当初は行政からの支援を受けることができませんでした。

私は20年前より、動物と触れ合って心を癒すアニマルセラピーなど、動物を介したさまざまな福祉活動を行ってきました。その経験をボランティア活動に生かしたいと、友人である高砂市民センター館長と連絡を取りました。そして、避難所生活を送る被災者や子どもたちのメンタルケアを目的に、当院で飼育する犬や猫、ウサギ、モルモットなどの小動物を持ち込むことにしました。聴診器で動物の心臓の音を聞いたり、抱いたり、エサを与えたりするなどして、少しでも心を和らげてもらいたい。30人ほど集まった子どもたちは、動物と触れ合うことで笑顔と元気を取り戻し、また、動物の出張検診サービスも、若林区や名取市、岩沼市、石巻市、女川



▲院長の菅原康雄さん

町などで行いました。震災で体調を崩したのは動物も一緒です。震災直後は無料で実施していましたが、現在では被害の大きかった地域の方々のペットに対して半額で行っています。2011年9月



▲高砂市民センターで動物とふれあう子供たち

には、仙台市動物管理センターと香川県獣医師会との仲立ちとして、被災して飼主から離れた犬の里親募集に協力しました。すべての犬の飼主が決まると、自前のキャンピングカーにゲージを積み込み、17時間かけて香川県まで運びました。その後もこの活動は続けていますが、これからは人とペットが安心して避難できる、何らかの対策が必要だと感じています。(院長 菅原 康雄さん談)

## 支援連携先

●香川県獣医師会:各動物の診療や動物愛護思想の啓発などを行う公益社団法人  
<http://www12.ocn.ne.jp/~kagawaju/index.html>

## 菅原動物病院

所在地	〒983-0033 仙台市宮城野区福住町2-14		
TEL	022-258-9490	FAX	022-258-9498
事業内容	小動物の診療	創業年	1985(昭和60)年
代表者	菅原 康雄	従業員	10名



# 仙台弁護士会有志の会

個人が復興しないと地域の復興もない。  
法律のプロとして変わらない状況を少しでも前へ。

震災後の混乱の中で、弁護士仲間と話しているうちに「被災者に対する無料法律相談はすぐにでも始めなければならない」ということになりました。自治体に協力してもらうために、山元町の顧問弁護士の先生を通して山元町災害対策本部に話をしてもらい、現地向かいました。2011年3月25日に女川町、26日に山元町で無料法律相談を行いました。

山元町へは11人で行き、まず災害対策本部で現地の被害状況を確認してから、相談を開始しました。建物の流失にともなう相談、がれき撤去の相談、車や住宅ローン、保険料などの支払いの相談、相続に関する相談など、1日だけで111件の相談がありました。中でも圧倒的に多かったのは、不動産に関する相談でした。こちらからは、罹災証明や被災証明について、生活再建についての情報などを提供しました。

実際に相談会を開くにあたり、被災者の方が相談しやすいように

「スーツは着ない」「難しい用語は使わない」など気を付けた部分もあります。役場の担当の方も、各避難所へ法律相談があることをあらかじめ広報してくれるなど、積極的に動いてくれ、私たちが活動しやすい場を整えてくれました。その後は仙台弁護士会から、被災地へ弁護士を派遣して無料相談を行いました。

震災直後はこちらからの情報提供が多かったのですが、今は再建に向けて起こるさまざまな問題についての相談が多くなっています。時間が経ってこそその問題もあります。震災直後は、みんなで助け合わなければという空気がありましたが、時とともに温度差が出てきました。被災者のための復興を法律の面から支えていきたいと思えます。

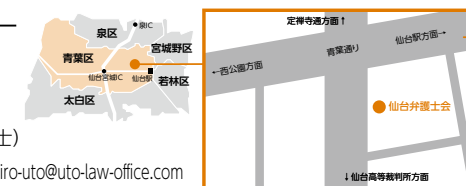
(宇都法律事務所 弁護士 宇都 彰浩さん談)



▲3月26日山元町(山下中学校)

## 仙台弁護士会有志の会

所在地	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-9-18(仙台弁護士会)		
TEL	022-223-1001	FAX	022-261-5945
代表者	内田 正之	事業内容	弁護士
取材者	有志による活動	取材者	宇都 彰浩(宇都法律事務所 弁護士)
取材者連絡先	〒980-0811 仙台市青葉区一番町二丁目9番22号 第2カノビル703 TEL 022-397-7960 FAX 022-397-7961 E-mail: akhiro-uto@uto-law-office.com		



# 高忠整体施術院

整体でもっと癒してあげたい。  
話を聞くことで心のケアにも。

当院の治療室にいて被災しましたが、電気は発災翌日にはすぐに復旧しました。店内に明かりがついているので、通りすがりの人たちに携帯電話の充電をよく頼まれました。建物被害はひび割れ程度でしたが、営業に差し支えはなく、ずっと開院することができました。

私は「宮城県健康管理士会」に属し、健康管理士の指導員の免許を持っているので、名取市の高館小学校や柴田町自然休養村太陽の村などの避難所へ行き、無料で整体を施しました。週1回のペースで避難所に出向き、被災者の方たちが仮設住宅に入居できるようになる4月から12月ころまで、希望者に札を配って順番待ちしていただき施術しました。1人10分~15分の予定でしたが、「しっかり癒してあげたい」と思うと時間は延び、実際は1人30分ほどになり13時から16時まで、1日7~8人は診ました。施術を開始すると、被災者の方は、家を流されたことなど震災時のことを語り始め、なかには堰を切ったように話した方もいらっしゃるのですが、静かに聞いてあげることがメンタルケアにつながったと思います。しかし、

避難所は段ボールで狭いスペースに仕切られ、2つしかないトイレも汚れているのが、実際に足を運んでみてわかる実情でした。しかし、善意で始めたボランティアとはいえず上手いことばかりではありません。避難所にはさまざまなボランティアの人たちがいて、ある避難所では「ほかのボランティア団体の予定が入っているから」と断られたりもしました。私としてはもう少し多くの方に施術して差し上げたい。もっと長い間、活動したかったという思いです。

(院長 高橋 一彦さん談)

## 支援連携先

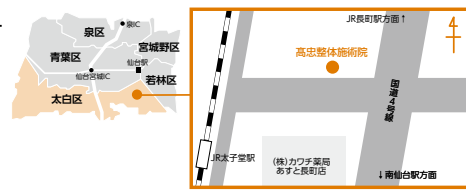
- 宮城県健康管理士会  
予防医学に関する知識の普及啓蒙活動を行うNPO団体



▲高忠整体施術院外観



▲避難所でのボランティア活動の様子▲



**高忠整体施術院**  
所在地 〒982-0007 仙台市太白区あすと長町3-10-25  
TEL・FAX 022-248-1307  
事業内容 整体業 創業年 1909(明治42)年  
代表者 高橋 一彦 従業員 5名

# (株)日専連ライフサービス

被災者の支払い延期は“無金利・無利息”。  
ポイントやカードで義援金を募り、被災県などに寄付。

事務所のあるAER(ショップ&ワンダー エール)は31階建のビルで、構造的にかなりの揺れがありました。キャビネットが倒れたり、机が飛んで窓ガラスの前で止まったりなど、危険な状況となりましたが社員は外出者を含め全員無事で、早めの帰宅を促しました。

米、野菜、薪など各方面から集められるだけ集め、当社が経営する高砂にある老人ホームをはじめ、必要なところへ食料や物資を提供しました。毎月15日と30日はお店にカードの売上金を送金する日だったので、お客さまに迷惑をかけないように、次の日から資金確保のために奔走しました。また、27日はクレジットの自動引き落とし日になっていましたが、引き落としできない件数が急激に上がり、津波被災地域の方は別枠としました。沿岸地域のお客さま約3万人の方に、安否確認と「お困りの方はご連絡ください」とはがきを送ると、多くのお客さまから「支払い困難」というご返事があり、無金利で支払いを延期しました。

さらに支援策として、カードポイント引換やカード払いの義援金コースを設定しました。集まった金額に社員の募金や会社負担を加えて、宮城県を中心に被災した東北3県などに寄付させていただきました。

また、福島県からの依頼で、風評被害を払拭するために“Fukurumカード”を作りました。名称、デザインは公募して決定し、中通り、浜通り、山通りの名産品などを描いたデザインのカードは、全国の人に使ってもらっています。

絆という言葉がよく使われましたが、震災から3年が経ち、日々その気持ちが薄れているのではないのでしょうか。社員、そしてお客さまとの関係をいかに太くしていくかが、永遠の課題だと思います。

(専務取締役 佐々木 真さん談)



▲福島県でのボランティア活動の様子



**(株)日専連ライフサービス**  
所在地 〒980-6109 仙台市青葉区中央1-3-1 AER9階  
TEL・FAX 022-267-2000 E-mail sasakim@nissenren-sendai.or.jp  
事業内容 金融業 創業年 1978(昭和53)年  
代表者 羽生 正弘 従業員 138名



# (株)橘 寿司

弁当を毎日低価格で販売。  
宮城は食の宝庫と再認識。

震災から1週間は後片付けに追われ、焼物など食器の被害が大きくなりました。水と電気は発災二日後には復旧したので助かりました。

お弁当の販売は3月20日から3週間続けました。毎日150食ほどを作り、お店の入り口で、儲けは考えず500円で販売しました。お客さまの中には毎日買いに来る方もいらっしゃる、お弁当作りにも力が入りました。食材の調達も、普段から付き合いのある業者から冷凍ハンバーグなどを購入しガスがまだ供給されていないため、女将さんが持ってきたホットプレートを使用して、従業員が調理しました。米も電気炊飯ジャーで炊いて、酢飯に仕上げました。

3月末には食材のストックがなくなり、既製品のかんぴょうやいなりを、卸町の仙台中央卸売市場までバイクで買いに行きました。お弁当販売を続けるうちに、ライフラインが復旧しはじめ、「ご飯は何とかなるのでおかげだけ欲しい」というお客さまの声が寄せられ、4月に入ってから惣菜だけの販売も始めました。ガスはまだ復旧しませんが、そ

ろる店を再開しようということで準備を整え始めた矢先、4月7日の余震に見舞われたのです。また振り出しに戻ってしまった状態で、正直、大変悔しい思いをしました。

7月ぐらいいは食材も揃いはじめ、まだすべてが地産というわけにはいきませんが、店の看板メニュー“仙台づけ丼”も提供できるようになりました。宮城の復興のためにも、“仙台づけ丼”のおいしさをもっと広めていきたいと思っています。

震災で地物は仕入れが難しかったとき、全国の業者仲間から食材を送ってもらい、大変に助かりました。それと同時に、今まで当たり前に入っていた宮城の食材は、あらゆる種類が揃い、豊富で新鮮、味もどこよりもうまいということを確認することができました。食の宝庫である仙台・宮城を、もっと多くの人に知っていただけるような働きをこれからも続けていきたいと思っています。

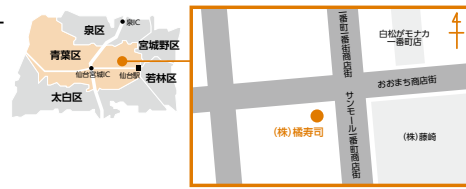
(専務取締役 相澤 直哉さん談)



◀店頭で弁当を販売している様子



▶店頭でお惣菜を販売している様子



**(株)橘 寿司**  
所在地 〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-3-25 たちばなビル5階  
TEL 022-223-3706 FAX 022-223-1706 E-mail info@osushi.co.jp  
事業内容 飲食店・寿司屋 創業年 1946(昭和21)年  
代表者 相澤 光哉 従業員 25名

# (株)ハナサク

花でみんなに癒しと勇気を。  
チャリティーイベントで震災遺児や避難所の子どもたちを支援。

震災直後は、とても営業できる状況ではありませんでした。店にはサクラが残っていたので、「自由にお持ちください」と張り紙をして店頭で置いたら、多くの方が持って行かれました。このことから、「花は人をきくと勇気づけてくれる」と思い、花屋としてできるボランティアをしようと思ったのです。

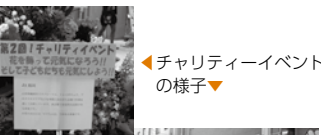
「お花を飾って元気になろう！そして子どもたちも元気にしよう！」という呼びかけで、2011年と翌年にチャリティーイベントを開催しました。このイベントは、東北芸術工科大学大学院仙台スクールの学生や、花き卸売りの仙花と一緒に実施したものです。

会場となったマーブルロードおおまち商店街には、カーネーションやバラなど、オレンジ・イエロー・ピンク・ブルー系の花10種類以上を用意し、その中から6本1束として好きな花を自由に選んでいただき1束500円で販売しました。売上の半額は震災遺児を支援する「あしなが育英会」と、避難所の子どもを支援する「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」に寄付しました。

震災後だから明るい気分になれるようにオレンジ・イエロー系の花が選ば

れると予想し、そんな色をたくさん準備しました。ところが、初日に多く選ばれたのは白やブルーの花でした。花の色彩心理によると、人々の心が望んでいたのはオレンジやイエローの意味する「明るく、元気になりたい」ではなく、白やブルーの「癒やし」だったと知り、重く受けとめました。会場では白い花を前に、涙を流された方もいたのです。好きな花を手にとって、少しでも心が癒やされるようにと祈るような思いでした。6カ月後の2回目以降は、赤やオレンジなどの明るい色の花を選ぶ人が増えてきたことが、私たちにとって救いとなりました。

(代表取締役 専務 佐藤 真弓さん談)



◀チャリティーイベントの様子



## 支援連携先

- あしなが育英会  
親を亡くすなどした子どもたちを支える民間非営利団体
- セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン  
教育支援や災害への緊急援助、予防活動等を行うNGO団体 <http://www.savechildren.or.jp/>

**(株)ハナサク**  
所在地 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-13-23  
TEL 022-265-8739 FAX 022-265-8823  
事業内容 生花販売 創業年 1953(昭和28)年  
代表者 佐藤 久美 従業員 30名



# (株)ハミングバード・インターナショナル

## カキ剥き施設の清掃ボランティア。 “Rebirth 東北フードプロジェクト”への参加。

震災時には、本町店の店舗が入っているビルの1階に従業員20名が集まりました。中には、自宅アパートで生活できないほどの被害があった従業員もあり、2階の事務所に泊まる者もいました。本町店では水道が止まることなく使え、電気も2~3日で復旧したので、震災後3日目からお弁当の販売を始めることにしました。

食材は、もともと蓄えていたものを使用したり、業者へ従業員が直接取りに行ったりしてなんとか確保しました。ただし、都市ガスが止まっていたのでカセットコンロを使い、限定メニューで1日200食を700円ほどで、お昼の11時半から売り切れるまで販売しました。都市ガスが復旧する4月6日まで、2週間ほど店頭での販売が続きました。この時期はライフラインも食材の流通もほぼ止まっている状態だったので、お弁当の販売はお客さまにとっても喜んでいただきました。

7月9日・10日には従業員3名が、松島町のカキ剥きの施設に清掃

ボランティアとして参加しました。その年の秋には、三菱地所グループが東北の経済復興を支援する“Rebirth 東北フードプロジェクト”に、“丸の内シェフズクラブ”と連携する東北エリアのパートナーシェフの1人として、当社の総料理長が参加しました。震災を経験して、特に農家をはじめとする地域の人々とのつながりがあるこそ、店舗が続けられているということを実感しています。東北の食材や伝統野菜を使ったメニュー開発などの取り組みを生かし、東北の食のブランド再生をし、これからも食を通じて復興支援に貢献したいと考えています。

(総務部 中村 光東さん談)



▲本町店店頭にてお弁当の販売をする様子 ▲復興マルシェの様子

### 支援連携先

- 丸の内シェフズクラブ  
食に関する提案等を行う、丸の内エリアを中心としたシェフたちのクラブ



## (株)ハミングバード・インターナショナル

所在地 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-6-16  
TEL 022-225-0522 FAX 022-215-6509  
E-mail nakamura@h-bird.co.jp 事業内容 飲食店、イタリアン・パスタのお店  
創業年 1957(昭和32)年 代表者 青木 俊夫 従業員 50名

# ビューティー・イン・ファイブ

## 温水でのシャンプー代から寄付金。 行列する来店客を家族3人で対応。

設備被害はドライヤーが1台倒れた程度でした。電気、ガスは止まりましたが、水道は無事で、電気も13日の夕方ぐらいには復旧しました。

電気が使えるようになってからすぐ、14日から5月まで1人1000円でお湯によるシャンプー＆ドライを行いました。“近隣の店の中では一番早く開業しよう”“水ではなくお湯でシャンプーをして差し上げよう”との意気込みです。電磁調理器や電気ポットなど3台で沸かしたお湯をため、風呂水ポンプを使った温水シャワーを利用する方法です。外の張り紙を見たお客さまが次々に来店し、整理券を配るとたちまち行列ができました。家族3人が協力して何とかお客さまの髪を洗うことができました。最大で1日25人くらい来ていただきました。

今回のお湯によるシャンプー＆ドライの売上げの30%を、日本赤十字社に寄付させていただきました。振り返ると、無料でで

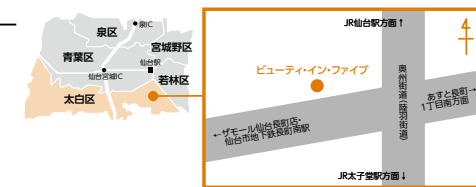


▲手づくりの温水シャワー設備 ▲佐藤三子さん、達也さんと家族

きなかったことに複雑な気持ちが残ります。しかし、家族3人で切り盛りする家族経営の店であり、店のテナント料や自宅の被害の修繕、生活するための費用もあるので、どうしてもお金を頂かないとやっていけなかったのが実情です。また、仙台市の下水処理施設も津波で大きな被害を受けており、節水を呼びかけられる中で水を大量に流すことが、やはり気になりました。自分たちができることを精一杯やったのは間違いありませんが、いろいろなところで心残りがあるのを感じています。(店主 佐藤 三子さん、佐藤 達也さん談)

### 支援連携先

- 日本赤十字社  
災害や紛争等の被災者救護などを行う人道機関 <http://www.jrc.or.jp/>



## ビューティー・イン・ファイブ

所在地 〒982-0011 仙台市太白区長町5-12-15 佐竹ビル1階  
TEL 022-247-2297 FAX 022-247-2297  
事業内容 理容・美容店 創業年 1988(昭和63)年  
代表者 佐藤 三子 従業員 3名

# 晩翠亭いこい荘 旅館

## 避難訓練のおかげでスムーズな誘導。 助け合い、耐えることをあらためて学ぶ。

震災時、宿にいたお客さまは、すぐそばの仙台市立木町通小学校へ避難していただくことができました。しかし、すでに避難してきた住民の方たちで、横になることすらできないほどいっぱい状態でした。特に年配のお客さまからは足を伸ばして寝たいという声があり、再び宿へ戻ることになりました。ただ、その後も何度も余震があったので、車へ避難したり宿へ戻ったりの繰り返しでした。

米は契約農家からの買い置きがあり、そのほかの食材は、味のりや味噌などの備えがあったので、発災当日の宿泊客にはご飯と味噌汁をお出しすることができました。水道は10日~15日後に復旧しましたが、震災前の予約はすべてキャンセルになりました。

震災から1カ月を経たころには、何とか通常通りの営業ができるようになっていました。その頃から、復旧工事の建設会社の従業員の方たちに宿泊していただけるようになりました。当初、燃料の灯油がないためにお風呂が沸かせませんでしたが、建設会社から灯油

提供の申し出をいただき、2日に1回お風呂を沸かすことができるようになりました。そこで、宿泊の方だけでなく近隣の住民の方々にもお風呂を無料で提供させていただくことにしました。お風呂の無料開放はライフラインがしっかり整うまでの半年間続けましたが、中には入浴を楽しみにしていただき2~3カ月もわざわざ通う方がいたり、大学病院の近くなので病院での付き添いの疲れを癒しに來られる方もいました。

復旧工事に励む方々の疲れを癒す宿となるようがんばってまいりましたし、地域の方に入浴設備を開放できたことも、この地で旅館を開いてきて良かったと思うことです。

(代表取締役社長 小野 定雄さん談)



▲晩翠亭いこい荘旅館外観



▲晩翠亭いこい荘旅館看板



## 晩翠亭いこい荘 旅館

所在地 〒980-0801 仙台市青葉区木町通一丁目8-31  
TEL 022-222-7885 FAX 022-223-2222  
事業内容 宿泊業、旅館 創業年 1963(昭和38)年  
代表者 小野 定雄 従業員 7名

# (株)日吉

## 家賃1カ月分の半額を見舞金として支援。 日本ガーディアン・エンジェルスの一員として、見回り活動を実施。

震災直後は、直ちに全社員で日吉第一ビル内の立体駐車場の交通整備やビルの安全確認を行い、テナントを1軒1軒回って被害状況を確認しました。これだけで18時過ぎくらいまでかかりました。

駐車場については、激しい揺れと停電によりすでに機能停止しており、利用していたお客さまにはタクシー代を差し上げて、車を置いたまま帰っていただきました。その後、すべてのお客さまの車の出庫対応が終了するまで、10日間程要することになりました。

一方、入院中の家内は、たまたま3月11日が退院の日でした。1人徒歩で、無事に帰路についたようですが、「見知らぬ中学生に助けられながら帰った」ということでした。家内を助けてくれた中学生には心から感謝していますし、こんな中学生がいることを本当に頼もしく思います。少し落ち着いてから、ビルのテナントに対しては、家賃1カ月分の半額を見舞金として支援させていただきました。

また、私個人としては、NPO法人“日本ガーディアン・エンジェルス

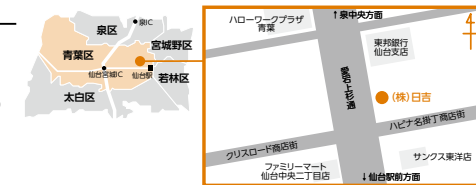


▲代表取締役の川嶋 隆さん

仙台支部”の一員として、石巻、女川、気仙沼などに防犯対策として延べ8日間程通い、見回り活動を実施しました。震災直後には、空き家の金品を狙った窃盗や、女性を狙った犯罪が横行していたので、10数人のグループで活動してきました。さらに震災直後には、福島から逃れて来た知人たち25人程に、1カ月近く自宅を避難場所として提供しました。この震災を経て気づいたことは、PHSが役に立ち、震災直後でも通話できたことです。その後、会社としてPHSを持つようになり、館内放送の設置やバリアフリー対策なども実施して災害に備えています。(代表取締役 川嶋 隆さん談)

### 支援連携先

- NPO法人“日本ガーディアン・エンジェルス仙台支部”  
安全で住みよいまちづくりを推進するNPO団体  
<http://www.guardianangels.or.jp/index.html>



## (株)日吉

所在地 〒980-0021 仙台市青葉区中央1-7-18  
TEL 022-222-7312 FAX 022-222-7311 E-mail hiyoshi1@extra.ocn.ne.jp  
事業内容 不動産業、駐車場経営 創業年 1949(昭和24)年  
代表者 川嶋 隆 従業員 10名

# ホテルふじや

## 被災したビジネスホテルが帰宅難民を受け入れ。地域での炊き出しや支援など身の丈の活動。

発災時は、ホテルにチェックインしようとしたお客さまが一人いらっしゃいましたが、すぐキャンセルして戻られました。建物の被害はひどい程度でしたが、ホテル全体の空調設備が壊れてしまいました。震災の影響で新幹線が仙台～白石間のちょうど長町付近で緊急停止し、そこで降車して歩き出した、行き場のない方々が大量いらっしゃいました。関東、関西から来られた人など、帰宅が困難な方々に「寒さをしのいでください」と客室を開放することにし、宴会場にも20～30人ほど入っていました。暖房はありませんが、給湯設備は無事でしたので風呂が提供できました。ご近所の方にもお風呂に入ってください、大変喜ばれました。停電していたので近くの葬儀店からはロウソクをたくさんいただき、懐中電灯とロウソクを明かりにできて大変助かりました。震災当日から、おにぎりや残っていた食材で弁当を家族で作り、ホテルの前でみなさんに配りました。ホテルは震災後も継続して営業していましたが、空調が壊れていたため、5月末まで宿

泊料半額としました。10月ごろまで、長町商店街の仲間たちと、石巻や気仙沼の被災地へ行って、震災復興のイベントに参加し売上金を寄付させていただきました。また、気仙沼のホルモン焼きや、石巻の焼きそばを仙台へ送ってもらってホテル内や復興イベントなどで販売し、その売上を提供先に寄付しました。広瀬川の灯籠流しの時も石巻焼きそばを提供して、その売上金の一部も寄付させていただきました。発災時はとにかく「やらなきゃ」の一心だったと思います。ホテルにあったものや自宅から持って来たものなど、すべて引っ張り出して、考える暇もなくできることをやりました。(代表取締役 渡辺 征夫さん談)



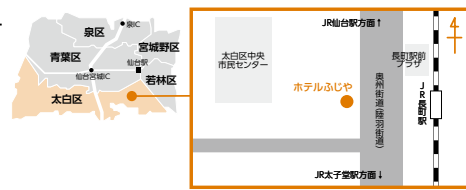
▲代表取締役の渡辺 征夫さん



▲ホテルふじや外観

### ホテルふじや

所在地 〒982-0011 仙台市太白区長町5-3-23  
 TEL 022-247-8001 FAX 022-247-8003  
 事業内容 宿泊・飲食業 創業年 1973 (昭和48年)  
 代表者 渡辺 征夫 従業員 15名



# (株)南仙台振興ビル

## 支援活動はボランティアではなく本音の助け合い。普段の付き合いこそ、いざという時の支えとなる。

震災時、ビルで揺れを感じ、まず上階の入居者に声をかけて回りました。当ビルは古くからの入居者で高齢者も多かったのですが全員をビルの外に退避させることができました。屋外待機をしていましたが、余震が続く、気温も下がり始めました。近くの仙台市立南材木町小学校の体育館が避難所になることを聞きつけ、そちらに向かってもらうことになりました。避難所に行ってみると人でごった返しており、何をどうすればいいのかわからない状態でした。それでも連合町内会長を中心に、できることを一つ一つやっていこうということになり、自家発電での照明の確保、炊き出しの準備など地域のリーダーたちと一緒に取り組んでいきました。食材は、近隣の大手豆腐工場や当ビルテナントのスーパーさん、河原町商店街の八百屋さんなどが、鮮度が落ちて傷んでしまう前に利用しようと、快く肉、野菜、調味料を無償で提供してくれました。こうした援助物資を地域の女性たちが避難所ごとに振り分け、アルファ米は区役所

から配布され、一週間ほど炊き出しを続けることができました。こうした地域の協力は本当に頭が下がる思いでした。少し余裕ができたころには、高齢者や一人暮らしの方々、24時間復旧作業に取り組んでおられた消防署の皆さんにも食事を届けたりすることもできたのです。また、当ビルはたまたま燃料タンクが満タンで給湯が可能だったので入居者や一部の困っている方々に熱いシャワーを提供することもできました。このように地域の力強い支え合いは、震災だから特別なのではなく、普段の付き合いから生まれます。小さな店ばかりなので、町を元気にしたいという共通の思いが、コミュニティーのつながりをより深くしてくれるのでしょう。(常務取締役 鹿野 成也さん、千田 茂さん談)



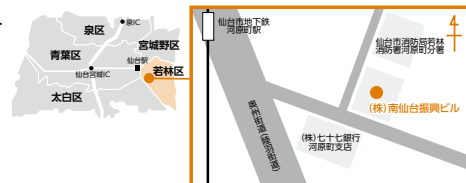
▲炊き出しボランティアの様子



▲200人用の鍋での炊き出し

### (株)南仙台振興ビル

所在地 〒984-0816 仙台市若林区河原町1-2-51  
 TEL 022-222-1757 FAX 022-227-7358 E-mail sp7b3ky9@guitar.ocn.ne.jp  
 事業内容 地域活性化のための不動産賃貸業など  
 創業年 1967 (昭和42年) 代表者 高橋 公男 従業員 5名



# 宮城県宗教学者連絡協議会

## 宗派をこえた“心の相談室”。遺族の無念の思いに寄り添う。

仙台市葛岡斎場では、震災後、毎日60体の遺体を火葬していました。沿岸地域で被災した人たちはすべてを流され、着の身着のまま参列している上に、お坊さんも津波で亡くなり、お経をあげる職もなくなりました。参列者の方々は、その場で心の区切りをつけることができず、悩んでいる方が多いのではないだろうかと思いました。そこで当会と仙台仏教会、仙台キリスト教連合の三者による話し合いが葛岡斎場で持たれました。火葬に参列されている方々を見て、「いくつかの宗派の者たちが揃っているのだから、ご遺族のために何かしたい」と思い立ち、奥山仙台市長にお願いして宗派を超えた“心の相談室”が葛岡斎場内に開設されることになりました。3月25日から4月末まで、キリスト教の牧師、神社の神主、仏教会の僧侶、立正佼成会など、宗派を超えて毎日3～5人が“こころの相談室”に常駐しました。相談内容の多くは「お墓がなくなった」「お坊さんが亡くなった」など、宗教的儀式に関することや家庭内の問題でした。

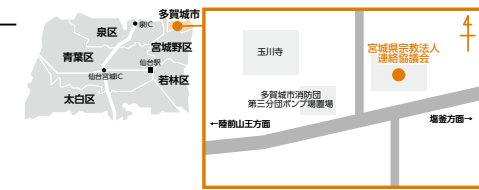
5月からは“電話による心の相談室”を開始し、その後は対応を東北大学宗教学研究室に引き継ぎ、主導していただきました。6月には葛岡斎場に仮置きしてあった身元不明遺体35体の、合同慰霊祭を行いました。それ以降も、毎月11日に宗派交代で慰霊祭を行っており、現在も継続中です。被災地で亡くなった方々の慰霊、浄霊は大切なことだと思います。また、栗原市の曹洞宗の僧侶の提案で、平成23年5月から移動喫茶「カフェ・デ・モンク」を始め、仮設住宅を回っています。今回のさまざまな支援活動を通じて、自分を取り巻く皆との絆や友情の強さ、信仰の深さ、応援してくれる組織の力などに心を動かされました。今まで以上に、強い絆、友情が自分を取り巻いていることに感謝しています。(会長 齊藤 軍記さん談)



▲心の相談室案内チラシ

### 宮城県宗教学者連絡協議会

所在地 〒985-0864 多賀城市市川作貫1  
 TEL 022-368-7554 FAX 022-707-9724  
 事業内容 宗教学者  
 代表者 齊藤 軍記 従業員 2050団体



# JA全農みやぎ みやぎフードキッチン COCORON

## 伝統野菜による農業の復興。高校との連携で食育につなげる。

震災による店舗の被害はほとんどなく、4日後には店頭販売にこぎつけ、3月末からは食材の仕入れもスムーズになり、都市ガスの復旧した4月初めからレストランを再開しました。震災直後は野菜が店頭から姿を消し、食べたくとも手に入らないという中で、私たちは生産と消費の重要性を再認識することができました。そこで「早期の農業復興を願ったJA全農みやぎと、消費者の立場から「食べて復興を応援したい」と考えていたみやぎ生協・明成高校の思いが一致し、2011年6月に宮城を元気にする“みんなの新しいふるさとづくりプロジェクト伝統野菜「仙台白菜」を立ち上げたのです。まずは、津波の浸水被害を受けた土地を復活させようと、塩害に強い白菜の栽培を名取の高館園圃で取り組むことにしました。栽培が難しく、市場から姿を消してしまった仙台白菜を、復興のシンボルにしようと考えたのです。翌年からはJAみやぎ巨理、JA名取岩沼、

JA仙台、JAいしのまき、JA南三陸の協力で、栽培地域を広げていきました。このプロジェクトは、以前から伝統野菜に取り組んでいた明成高校と宮城農業高校と連携し、食育にも発展し、2012年には2校に加え、岩沼市・仙台市の小学生やボーイスカウト、みやぎ生協の組合員たちも一緒に定植作業に参加しました。収穫された仙台白菜は、サンモール一番町と香式参(いろは)横丁の飲食店で使っていただき、仙台白菜の普及と被災した土地の復興に役立てばと考えています。2013年のイベントでは、沿岸部にあるJAの野菜の販売や応援ランチの売上の一部を、JAグループ宮城災害復興本部に募金として寄付させていただきました。(JA全農みやぎ 営業企画部次長 針生 久夫さん談)



▲みやぎフードキッチンCOCORON外観

### JA全農みやぎ みやぎフードキッチン COCORON

所在地 〒980-0811 仙台市青葉区一番町2丁目5-1 第一野村ビル1階  
 TEL・FAX 022-211-0556 E-mail hariu-hisao@zenoh.or.jp  
 URL http://www.e-cocoron.com/index.html 事業内容 地産地消推進店、農業の担い手の応援、全農みやぎのアンテナショップ  
 創業年 2009 (平成21年) 代表者 千葉 和典 (全国農業協同組合連合会 宮城県本部 県本部長) 従業員 18名



## 女性専用 お顔そり専門店 Love-Face(ラブフェイス)

### 友人の名取市関上中学校教師と連携。 中学生用の運動靴50足を調達。

店は2010年にオープンしたばかりで、開店してからまだ1年も経っていない時期の震災でした。店が入っているビルは半壊扱いとなり営業できず、さらに当時はお客さまも健康や美容に気を遣うという状況ではなかったと思います。売り上げは激減して、従業員に給与を支払うことができなくなってしまい、苦渋の選択ではありましたが、全員解雇せざるを得ませんでした。

店を閉めて、1人で店内の後片付けなどを行っている時、1本の電話がありました。名取市立関上中学校の教師をしている友人からでした。「バスケットボール部の顧問でもある友人は、「中学生が履ける運動靴がすべて流されてしまった」と言うのです。その後は、ツイッターやメールを使いながら友人と、連絡を取り合うことになりました。

そんな中、私はサンモール一番町で行われている「マルシェ・ジャポン センダイ」が商店街の空き店舗を拠点に全国からの支援物資を集めていることを耳にし、自分でも何かできることはないか、見



▲ラブフェイス内観

に行ってみることにしました。するとちょうどそこにメーカーからの新品の運動靴や中古の運動靴があるのを見つけたのです。早速、事情を話して中学生くらいのサイズの靴を約50足譲ってもらうことをお願いしました。それを名取市役所まで運び、待っていた友人にやっとならぶことができたのです。仕事のできないつらい時期でしたが、人とつながり合うことによって、困っている人の役に立つ動きができたことは良かったと思います。

また、アウトドア好きな私は、車に入れてあるガスコンロやボンベなどのキャンプ用品を有効に使うことができ、近くのイタリアンレストラン「Mia Angela」の炊き出しに協力することもできました。

その後、少しずつ落ち着きを取り戻し、片付けや準備も整い、何とか9月には店を再開させることができました。

(代表 二瓶 直樹さん談)

### 女性専用お顔そり専門店 Love-Face(ラブフェイス)

**所在地** 〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-11-3  
**TEL** 022-214-0980 **E-mail** naokidx@yahoo.co.jp  
**事業内容** サービス業・女性専用お顔そり専門店  
**創業年** 1908(明治41)年 **代表者** 二瓶 直樹 **従業員** 5名



## (株)和田商 レナーク・イスト

### 沿岸部の離島にドライシャンプーを届ける。 避難所ではボランティアカット。

震災後、店舗の被害もあって1週間休業しました。そのため、社員たちを自宅待機させましたが、実家に帰って自主的にボランティア活動をした社員もいました。

プロパンガスを使用していた上谷刈にある店舗「レナークWITH」が3月25日、最初に営業を再開し、シャンプー、ブローを500円～1000円で提供しました。4月中旬には取引先から300本のドライシャンプーを譲ってもらったので、トラック運送業を営む友人に運んでもらい、水道の復旧が遅かった沿岸部の離島へ届けることができました。人とつながりが、災害時には本当に力を発揮したと思います。また、ハンドマッサージのサービスも行い、代金の一部を取引先のNPO法人に寄付しました。

さらに、社員10数人でボランティアカットも行いました。ボランティアカットは当初、衛生面で営業許可が出ませんが、行政側と何度か話をしてなんとか実施することができました。荒浜からの避

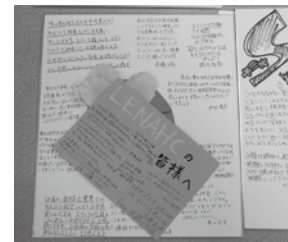
難者がいる若林区体育館と仙台市立八軒中学校で、計100人くらいの方々のカットを行いました。その後、ガスや設備が復旧した店舗から営業を再開し、1カ月間は全メニュー3割引の料金で提供させていただきました。

お客さまから「きれいになって生き返ったよう」と言葉をかけられ、社会貢献できていることを実感でき、自分たちの仕事がみなさまに求められているんだと励みになりました。また、私どもにも営業できなかった時期には、同業者の方から物資や義援金、励ましの寄せ書きをいただくなどして支えていただき、大変心強くありがたく思っています。

(代表取締役社長 和田 達雄さん談)



▲レナーク・イスト外観



▲同業者からの励ましのメッセージ

### (株)和田商 レナーク・イスト

**所在地** 〒980-0021 仙台市青葉区中央二丁目3-18 クリスロード阿部蒲鉾店2階  
**TEL・FAX** 022-222-8431 **E-mail** info@lenahc.co.jp  
**事業内容** 美容業、エステティック、化粧品販売、貸衣装、写真撮影、不動産賃貸  
**創業年** 1964(昭和39)年 **代表者** 和田 達雄 **従業員** 50名



## 資料

# アンケート調査結果

### 調査概要

#### 1. 調査目的

東日本大震災の際、商店街や個人商店、事業所等の皆さんが取り組まれた支援活動の内容等を把握し、その結果を参考に、一部の商店・事業所等に取材をさせていただくため、アンケート調査を実施した。

#### 2. 調査内容

(1) 商店・事業所等の基本情報

(2) 被害状況

(3) 被災者支援・ボランティア等の支援活動の内容

- ・主な活動内容
- ・活動人数
- ・活動に際して役立ったこと
- ・活動に際して不足していたこと
- ・活動を記録したものの有無
- ・対応マニュアル作成の有無
- ・活動の継続状況
- ・活動を行っての気持ち
- ・活動実施の意思の有無
- ・活動を通して得た教訓・伝えたいこと

#### 3. 調査の概要

(1) 調査実施期間 平成25年9月25日(水)～10月12日(土)

(2) 調査対象 仙台市内の商店街振興組合、宮城県生活衛生同業組合の加盟店・事業所2,321社

(3) 調査方法 配布／各商店街振興組合の定期便及び直接郵送回収／郵送

(4) 有効回答件数・率 233件(10%)

#### 4. 調査結果の見方

- ・調査数(N=Number of cases)とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多岐選択式の質問においては、すべての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- ・調査票における設問及び選択肢の語句、回答内容の語句等を一部簡略化している場合がある。